使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買上げの販売店または、最寄りの弊社支店、営業所へご連絡ください。

● 駆動輪の空気圧の確認

⚠注意	駆動輪の空気圧が少ないと、ブレーキがかからない場合や、かかりが悪くなる場合がありますので、空気圧には十分注意してください。

適正空気圧：7.0kgf/cm²
（スリムタイヤの場合）

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交　換　時　期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

- シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

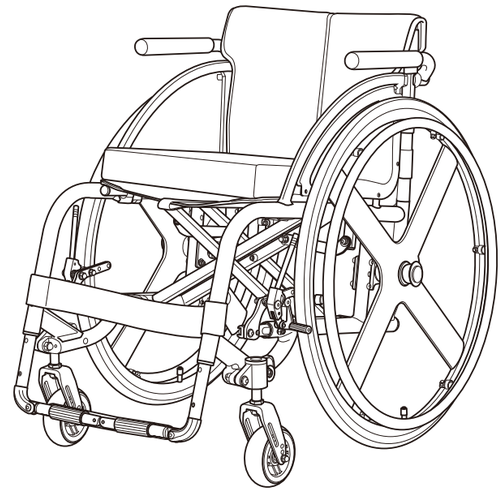
Wheel Chair MiKi
株式会社　ミ　キ
〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

1802-003

ノーヴァ　クワトロ　イニシャル　ジー　イニシャル　エス

NOVA IV *initial G / initial S*

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目　次

本製品について ・・・・・・・・・・・・2
安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・2
おもな機能と特長 ・・・・・・・・・・4
各部のなまえ ・・・・・・・・・・・・・4
使いかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・5
車いすの開きかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
乗り降りのしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
駆動輪の取外し・取付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
走行上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
車いすの持ち上げかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
車いすのたたみかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
フットブレーキの使いかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
各部の調節のしかた ・・・・・・・・7
駐車用ブレーキの調節 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節 ・・・・・・8
フットサポートの高さ調節 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
バックサポート(背もたれ)の張り具合調節 ・・10
転倒防止装置の格納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
転倒防止装置のクリアランス調節 ・・・・・・・・・・11
使用上のご注意 ・・・・・・・・・ 裏表紙

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

FORCE
MASTER OF WHEELCHAIR　POWERED BY MiKi

本製品について

本製品NOVAⅣは、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を多数用意しております。
オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただきますので、お車ごとに装備内容が異なります。
本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に オプション マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
⃠	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

⃠ **スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。**

❗ **自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。**

⃠ **乗車したまま、階段を下りたりしないでください。**

❗ **駆動輪車軸の前後位置は、車いすの重心バランスに重大な影響を及ぼします。**
不安定な位置での使用は、転倒のリスクが増え、重篤な事故につながる恐れがあります。ご使用者の障害や操作スキルに合わせ、適正な位置を選択してください。

⃠ **エスカレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。**
転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

⚠警告

❗ **乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

❗ **使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。**
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。［背折れジョイント（オプション）選択時］

❗ **前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。**

⚠警告

❗ **乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。**

❗ **［着脱式車輪をご使用の場合］**
駆動輪が抜けないようにしっかりとロックしてご使用ください。
駆動輪の差し込みが不十分な場合、車軸のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。車いすをお使いになる際は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してからご使用ください。

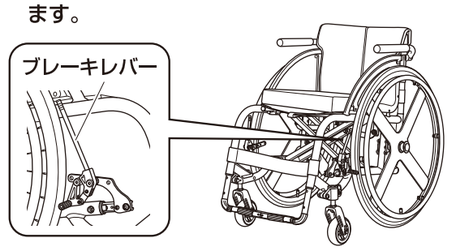
⃠ **乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⃠ **手押しハンドル［オプション］や、バックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。**
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

❗ **使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ずブレーキをかけて駆動輪とフレームを持ってください。**
駆動輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **［セパレートフットサポートをご使用の場合］**
乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

⃠ **乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。**
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



❗ **各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。**
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。**
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。

❗ **車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

❗ **座高および駆動輪の前後位置調節は、販売店へご依頼ください。**

⚠注意

⃠ **この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。**

❗ **段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

⃠ **走行中、身体を乗り出さないでください。**
走行の安全を損ない危険です。

❗ **操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。**

⃠ **折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。**
手をはさみ危険です。

❗ **使用する前に駆動輪・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。**

❗ **車いすを自動車に載せる際および降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに操作してください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

⃠ **暖房器具にタイヤを近づけないでください。**
タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

⃠ **シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。**
製品を傷める恐れがあります。

⃠ **車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。**
手をはさみ危険です。

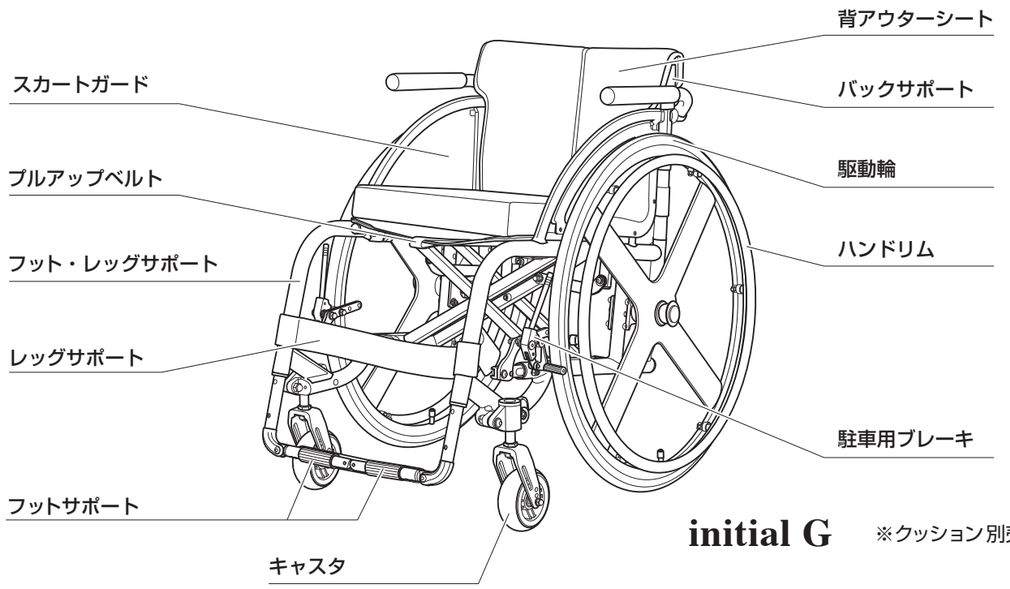
おもな機能と特長

● シーティング機能
バックサポートと座面のシートの張り具合を、体型に合わせて調節することができます。
（テンションバックシート選択の場合）

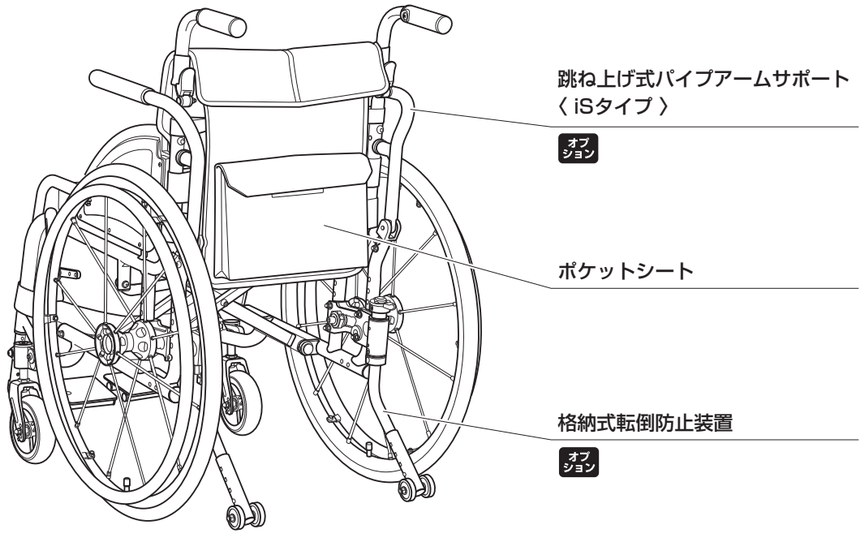
● モジュール機能
座面の高さおよび角度、駆動輪の前後位置をお好みに合わせて調節することができます。

各部のなまえ

⚠注意	各部の調節は販売店へご依頼ください。



initial G ※クッション別売り



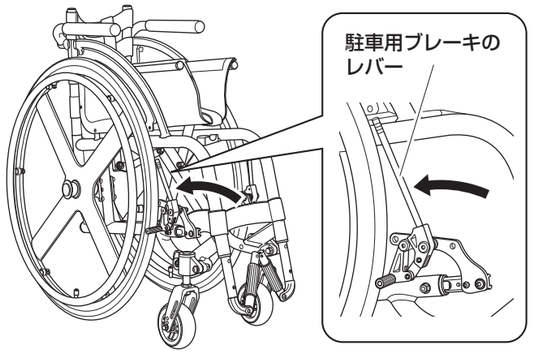
initial S

使いかた

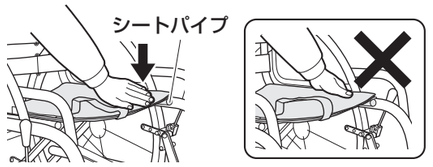
車いすの開きかた

⚠注意	シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。

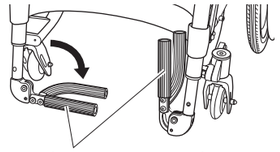
1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、
両輪のブレーキをかけます。



2 シートパイプを手の平で押し下げます。
＊シートパイプを握らないでください。
＊片側の車輪を少し浮かせた状態で開くと、
スムーズに開きます。



3 セパレートフット
サポート装着車の
場合は、
フットサポートを
降ろします。



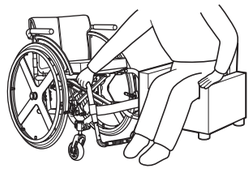
乗り降りのしかた

対マヒ使用者の場合

⚠警告	乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。

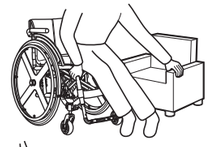
● 乗りかた

1 車いすを自分の
真横によせます。

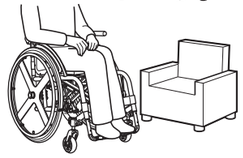


2 駐車用ブレーキの
レバーを引いて、
両輪のブレーキをかけます。

3 車いすをしっかりと
持ち、腰を浮かせて
ゆっくり乗り移ります。



4 両足を
フットサポートに
乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

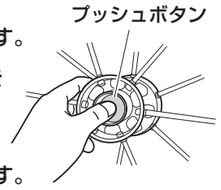
駆動輪の取り外し・取り付け

着脱式車輪をご使用の場合

ワンタッチで駆動輪を外せるため、コンパクトに収納、持ち運びができます。

● 取り外しかた

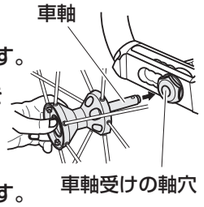
1 駐車用ブレーキを解除します。
2 車軸中心のプッシュボタンを
押しながら、車軸ごと
駆動輪を引き抜きます。
3 反対側も同様に取り外します。



＊車軸に差し込まれたスペーサーをなくさないように
注意してください。

● 取り付けかた

1 駐車用ブレーキを解除します。
2 車軸中心のプッシュボタンを
押しながら、車軸を
車軸受けに差し込みます。
3 反対側も同様に取り付けます。



＊取付後は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜け
ないか確認してください。

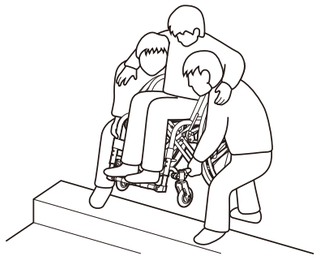
⚠警告	駆動輪が抜けないようにしっかりとロックされているのを確認してからご使用ください。 駆動輪の差し込みが不十分な場合、車軸のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。

走行上のご注意

⚠注意	・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。 ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。 ・溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには充分注意してください。 ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。 ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。 ・下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、必ず前向きで走行してください。不安な場合は、他の人に助けてもらってください。 ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。 ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

車いすの持ち上げかた

⚠警告	車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪のスポーク等を持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。



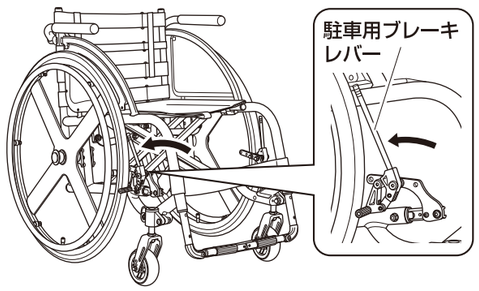
車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま吊り上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側から持ち上げるようにしてください。

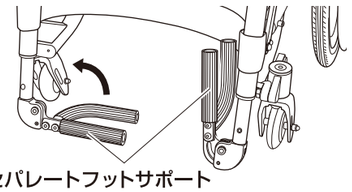
＊使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。

車いすのたたみかた

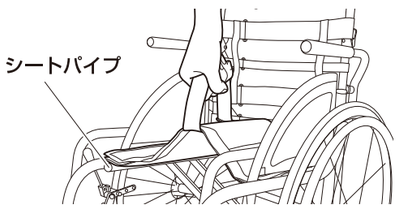
1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



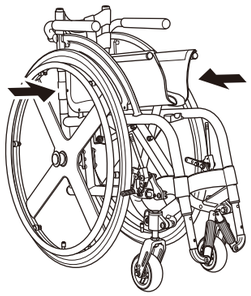
2 セパレートフットサポート装着車の場合は、両側のフットサポートをはね上げます。



3 座シートの前端もしくはプルアップベルトを引き上げ、シートパイプを引き寄せます。



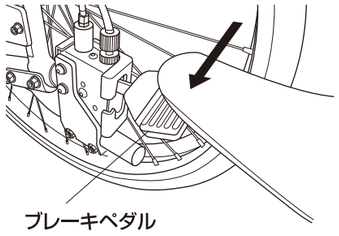
4 車輪を両側から押し、座シートを折りたたみます。



フットブレーキの使いかた

オプション

⚠注意	・ブレーキ点検は定期的に行ってください。 ・ワイヤーの交換は、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に1度） ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、本ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながる恐れがあります。



● ブレーキのかけかた

左右のブレーキペダルをカチッという音がするまで踏み込みます。
※車いすが動かないか確認してください。

● ブレーキの解除のしかた

ブレーキがかかった状態で左右のブレーキペダルをカチッという音がするまで踏み込みます。
※車いすを動かして、両側のブレーキが解除されたことを確認してください。

各部の調節のしかた

⚠警告	各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

駐車用ブレーキの調節

駐車用ブレーキのかかり具合が悪いと、立ち上がり時やベッドなどに移るときに大変危険です。
ブレーキは随時チェックし、下記方法に従って調節してください。

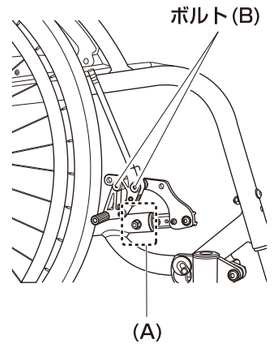
1 タイヤの空気圧が適正か確認します。

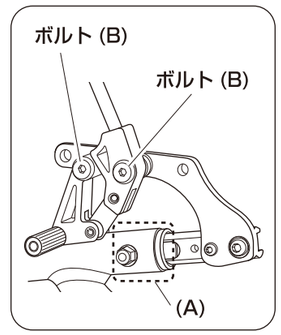
2 ブレーキをかけた状態で駆動輪を手で回します。手で回るようなら、ブレーキのかかりが弱いので以下の方法で調節します。

3 (A) 外側のナットをゆるめてから内側のボルトをゆるめます。

4 ブレーキ取付ステーを前後にスライドさせ、適切な位置で内側のボルトを軽く締め、仮固定します。

5 ブレーキのかかり具合を確認します。
かかりが良ければ、内側のボルトを締めこみます。
＊かかりが悪ければ、手順4～5を再度行います。





6 反対側のブレーキを確認し、必要であれば調節をします。

＊上記の調節のみでは不十分な場合（ブレーキがかからない、操作が固い、弱い等）や、駆動輪の前後位置を調節した場合（P.9 参照）は以下の方法で調節します。

1 ボルト (B) の頭をレンチでおさえた状態で、反対側のナットをスパナを使用してゆるめ、ブレーキをステーから取り外します。

2 適切な穴位置にブレーキを取り付け、平ワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順でボルト (B) に取り付けます。

3 袋ナットを軽く締め、仮固定します。

4 ブレーキのかかり具合を確認し、ボルト(B)の頭をレンチでおさえた状態で、スパナを使用してナットを増し締めし、固定します。
＊かかりが悪ければ、前項手順4～5を参照の上、調節を行ってください。

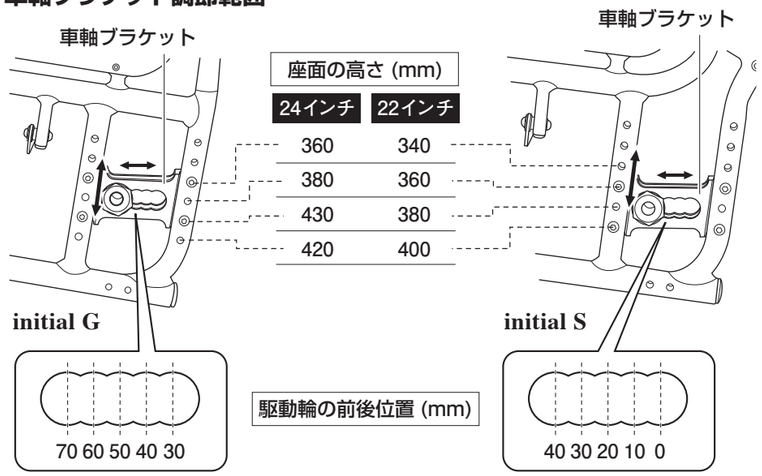
5 反対側のブレーキを確認し、必要であれば調節します。

座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節

車軸ブラケットの取り付け位置を変えることで、座面の高さを調節することができます。24インチ車輪、22インチ車輪共に４段階に調節できます。
また駆動輪の前後位置を変えることで、前後車輪間の距離を調節することができます。

- 座面の高さを変更したら、同時にキャスタと駐車用ブレーキと転倒防止装置（オプション）の調整が必要になります。
- 駆動輪の前後位置を変更したら、同時に駐車用ブレーキの調整が必要になります。
- 車軸ブラケットとキャスタは、左右とも同じく調節してください。

車軸ブラケット調節範囲

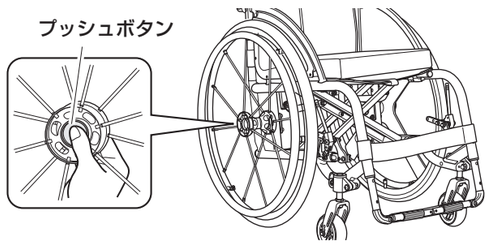


⚠危険	・使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。 ・駆動輪車軸の前後位置は、車いすの重心バランスに重大な影響を及ぼします。不安定な位置での使用は、転倒のリスクが増え、重篤な事故につながる恐れがあります。 ご使用者の障害や操作スキルに合わせ、適正な位置を選択してください。
⚠注意	・座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節は、販売店にご依頼ください。 ・座面の高さの変更は、座面の角度に留意して調整を行ってください。 適正な座面角度は、NOVAⅣのオーダーフォームもしくはカタログの角度表を目安にしてください。

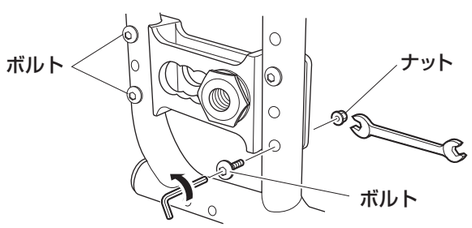
■ 座面の高さを変える

1 ブレーキを解除します。

2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車軸ごと駆動輪を引き抜きます。(着脱式車輪の場合)



3 ボルト（4本）の頭を六角レンチで固定しながら、反対側のナット（4個）をスパナなどで回して、ボルトを取り外します。



4 車軸ブラケットの取付位置を決め、ボルト（4本）とナット（4個）で取り付けます。

座高を下げたい場合はブラケットの位置を上げ、
座高を上げたい場合はブラケットの位置を下げます。

5 手順２と逆の要領で、駆動輪を車軸受けに差し込みます。

6 駆動輪ががたつかず、車軸ブラケットがしっかり固定されていることを確認します。
さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。

7 反対側の車軸ブラケットの取付位置も同様に変えます。

＊次に駐車用ブレーキとキャスタを調節してください。（7ページ「ブレーキの調節」、9ページ「キャスタの角度を調節する」参照。）
＊転倒防止装置を取り付けている場合は、転倒防止装置の位置を調節してください。（11ページ「転倒防止装置（固定タイプ）の位置調節」参照。）

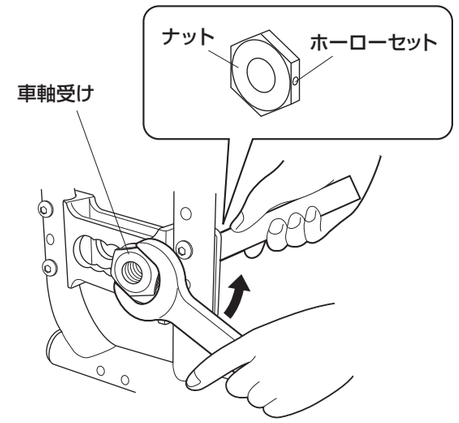
■ 駆動輪の前後位置を調節する

駆動輪の位置を前寄りに移動すると、小回りがきくなど車いすの動きが軽快になり扱いやすくなります。
その反面、重心が後ろに移動するため転倒しやすくなりますのでご注意ください。

1 前項「座面の高さを変える」の手順２の要領で、駆動輪を取り外します。

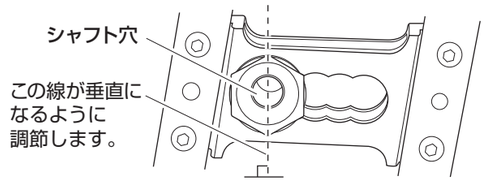
2 車軸受け内側のナットを固定しているホーローセットを、レンチでゆるめます。

3 スパナ（30mm）２本を使用して、車軸受け（外側）を押さえながら、内側のナットを取り外します。



4 車軸受けの取付位置を決め、スパナ（30mm）２本を使って内側のナットを締めこみます。

＊キャンバー付きの場合は、シャフト穴が外に偏っている側が真上を向くように車軸受けを取り付けます。



5 ナット横のホーローセットを、レンチで締め付けます。

6 駆動輪を車軸受けに差し込みます。

7 駆動輪ががたつかず、車軸受けがしっかり固定されていることを確認します。さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。

8 反対側の車軸受けの取付位置も同様に変えます。

＊次に駐車用ブレーキを調節してください。
（7ページ「ブレーキの調節」参照。）

■ キャスタの角度を調節する

車軸位置を変更すると座角（フレームの前後差）が変わるため、キャスタの角度と合わなくなり適正な走行ができなくなります。車軸位置を変更したら、下記方法に従ってキャスタの角度を調節してください。

1 内側のナットをゆるめてからボルト（A）を、レンチとスパナを使用してゆるめます。

2 ボルト（B）を、レンチを使用してゆるめます。

3 キャスタ軸が垂直となるように、ラックの角度を調節します。

＊垂直にできない場合は、調整金具を一旦取り外し、もう一方の溝にはめこんで調節してください。
この時、ワッシャーの入れ忘れにご注意ください（右図 C 参照）。

4 ボルト（A、B）をしっかりと締めた後、内側のナットを固定します。

＊調整金具がラックの溝に収まっていることを確認してください。

5 反対側のキャスタも調節します。

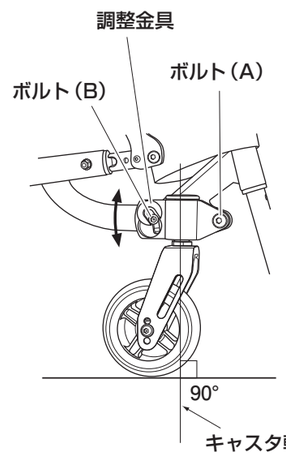
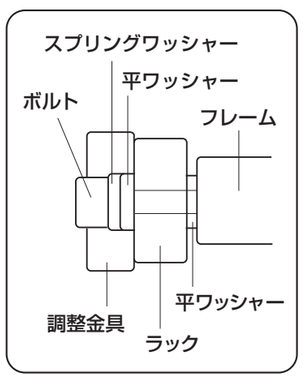


図 C



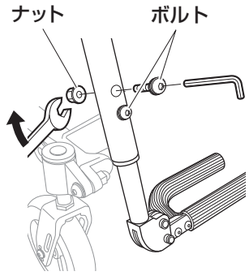
フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。調節は、フットサポートインナーパイプ上の高さ調節用穴（６箇所）へのボルトの取付位置を変えることで行います。
＊フットサポートは左右とも同じ高さに調節してください。

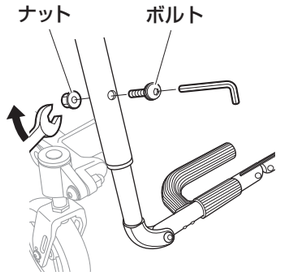
1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 上側のボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを取り外します。下側のボルトは、レンチでゆるめて取り外します。

セパレート フットサポート

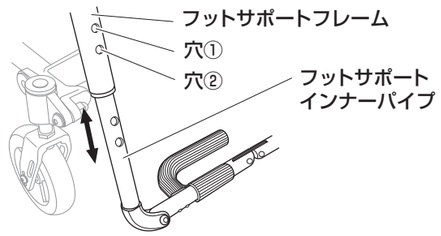


ジョイント フットサポート



＊セパレートフットサポートの場合はボルト２本、ジョイントフットサポートの場合はボルト１本を外します。

3 フットサポートを適切な高さに調節し、ボルトを通す穴を決めます。



4 フットサポートフレームの穴①から手順３で決めた穴に、ボルトを通します。

5 ボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットを締め付けて固定します。

＊セパレートフットサポートの場合は、穴②にもボルトを取り付けます。

6 もう片方のフットサポートも同じ高さに調整します。

＊フットサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

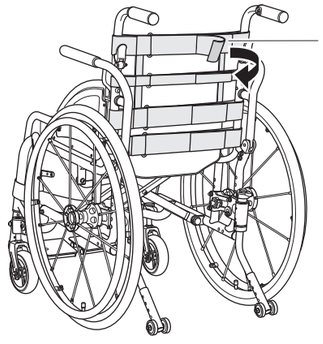
バックサポート（背もたれ）の張り具合調節

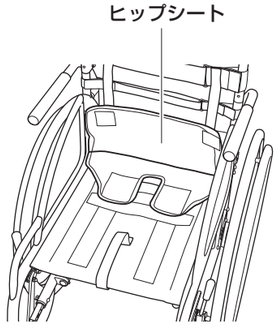
バックサポートにはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

＊調節は使用者を乗せた状態で行ってください。
＊背アウターシートを外して調節を行うと、効果を確認しやすくなります。

1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 下から上の順に、ベルトの面ファスナーを貼り直してベルトの張り具合を調節します。ヒップシートの張り具合も同様に調節します。





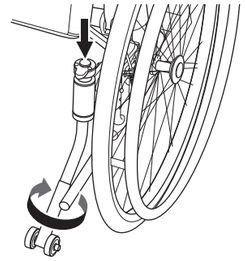
＊アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。
＊過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。
＊リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。

転倒防止装置の格納

オプション

転倒防止装置の旋回軸上面を押し下げながら、内側に回し込んでロックさせます。

＊使用する際は転倒防止装置を手前に引き出しロックされていることを確認してお使いください。



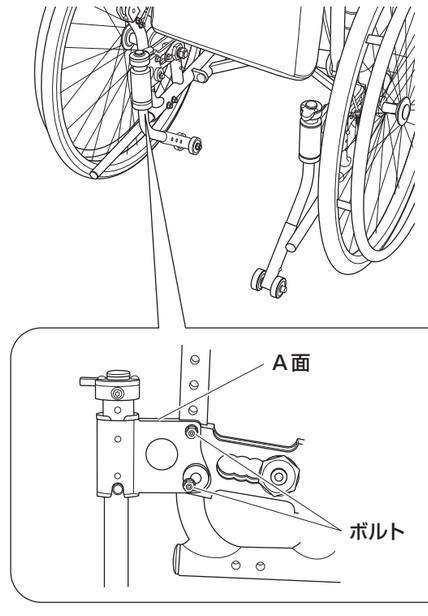
転倒防止装置のクリアランス調節

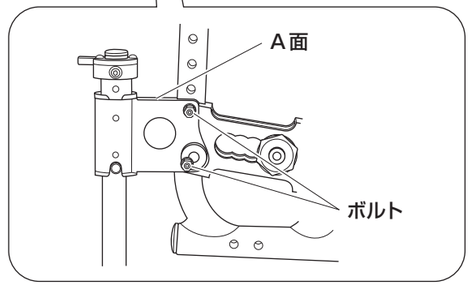
オプション

転倒防止装置と地面とのクリアランスを調節することができます。
＊座面の高さを変えたときは、必ず転倒防止装置のクリアランス調節を行ってください。
＊転倒防止装置は左右とも地面とのクリアランスが同じになるように調節してください。

取付角度の調節

1 車軸ブラケット後方のボルト（2本）をレンチとスパナを使用してゆるめます。



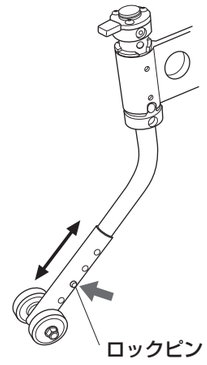


2 A の面と床が平行になるように転倒防止装置の傾きを調節し、手順１でゆるめたボルト（2本）を増し締めします。

3 同様に反対側も調節します。

クリアランスの調節

1 ロックピンを指で押し込み、転倒防止装置を前後にスライドさせて適切な位置に調節して、固定する穴を決めます。



2 手順１で決めた穴にロックピンを固定し、確実に固定されたことを確認します。

3 もう片方の転倒防止装置も同じ位置に調整します。